

第1章 10年後を見据えた長期展望

第1節 高齢者の理想社会とは

生きるうえで、人が歳を重ねることは自然の摂理であり、自身や家族が心身ともに健康であり、かつ、生きがいのある生活を送ることができることは、私たちにとって非常に価値のあることです。

また、健康であっても介護が必要な状態になっても、日々の生活に不安なく、不自由なく暮らしながら歳を重ねることができ、価値ある人生を送れるようお互いが支えあい、生きがいを持って生きていける社会こそが、全ての人々にとっての理想的な社会といえます。

超高齢社会を迎えるにあたって、このまちに暮らす全ての人々が、安心と安全に包まれ幸せな人生を送ることができる社会こそが目指す社会の理想ですが、こうした社会を実現するためには、行政のみならず、社会全体で取り組んでいくことが求められています。



第2節 計画の将来像

10年後に迫った本格的な超高齢社会において、高齢者一人ひとりが可能な限り住み慣れた地域で安心と安全に包まれ、幸せな「生活」を送ることができる理想的な社会を構築するため、本計画が目指す理想社会の将来像を

住み慣れたまちで自分らしく生きる
～高齢者にやさしい「わ」のまちひかり～

として、地域で暮らす高齢者一人ひとりが、日々の暮らしの中で「光市に生まれてきてよかった」「光市で暮らすことができて幸せだ」と実感でき、「愛着」や「絆」に包まれて、住み慣れたまちで自分らしく生きることのできる「わ」のまちひかりの実現を目指します。



第3節 まちづくりの基本姿勢

10年後の光市において、高齢者の皆さんが、健康でいきいきと生活し、介護が必要な状態になっても、お互いに支えあい、自分らしく生活できる地域社会を実現するため、「対話」「調和」「人の輪」の3つの「わ」をまちづくりの基本姿勢として、ともに理想社会の実現を目指します。

対 話

ふれあいや助け合いによる対話あふれる地域をつくります

地域全体が助け合いの精神により、互いに信頼関係を深め、やさしさを基調とした、「対話」あふれる新たなコミュニティ社会を目指します。

調 和

高齢者が幸せを実感できるようサポート体制の調和を図ります

高齢者を支援する全ての人々に配慮した、幸せが実感できるまちとなるよう、限られた地域資源を有効に組み合わせ、やさしさが「調和」した高齢者支援を行います。

人の輪

高齢者が活躍できる地域の輪をつくり、ともに社会を担います

豊かな経験や知識を有している高齢者が中心となって、地域の活力を生み出し、多世代の人たちが共に「人の輪」を広げ、協働して社会を担います。